

テーマ

地震・津波を想定した避難訓練について
～様々な津波到着までの時間に対応するために～

鹿児島県指宿市立今和泉小学校

I 学校の概要

本校は、火災、地震・津波、不審者を想定した避難訓練、風水害を想定した保護者への引き渡し訓練をそれぞれ年1回実施している。

学校の目前には錦江湾が広がっており、海抜 6.9mの場所に校舎が建てられていることから、津波を想定した避難訓練には特に力を入れて取り組んでいる。

II 避難訓練（地震・津波）の取組の概要

1 取組の内容、方法等

(1) 本校は、海岸までの距離が 27mと海に近いため津波到達までの時間や津波の高さに対応して、より安全な避難場所を判断する必要がある。そのため、津波到達までの時間等、様々な状況を設定して避難に適した場所へ避難する訓練を実施している。

(2) 避難場所は通常海抜 73mの西指宿中学校と定めているが、本校からの距離が 2.9kmと遠く子供の足だと 30 分程かかるために津波到達までの時間が短い場合には、全員が避難することが難しい。

そこで、あえて到達までの時間が 10 分以下と短く津波の高さが 4 m以下の場合を想定し、避難先や避難方法を検討して実施することとした。

2 避難訓練の内容とねらい

- (1) 地震発生後の津波警報発令に際し、安全かつ迅速に行動し、冷静沈着に規律正しく避難できる態度や能力を養う。
- (2) 地震発生後の津波警報発令に対し教師が冷静かつ的確に状況を判断し、安全かつ迅速に児童を誘導する訓練の場とする。

3 避難訓練実施までに工夫したこと

- (1) 今年度は指宿商業高等学校や近隣の幼稚園と合同で避難訓練を実施する予定であったが、コロナウイルス感染防止のため本校単独で避難訓練を実施することとした。
- (2) 本校から指宿商業高等学校 4 階への避難ルートを検討し、全職員で確認するとともに、実施日時について事前に打合せを行った。

4 避難訓練の状況

- (1) 地震・津波の避難訓練の実施
ア 開催期日 令和3年11月26日
イ 参加者 全児童、消防署

(2) 避難訓練の実際



【1次避難後の人員確認と2次避難指示の場面】



【2次避難で指宿商業高校の階段を駆け上がる場面】

5 取組の成果と課題

(1) 成果

- ・ 津波警報が発令された場合、津波の状況をいち早く把握し、確実に避難できる場所へ子供たちを誘導しなければならない。今回の訓練で、津波到達までの時間が短い場合の有効な避難方法や新たな避難場所を教児ともに確認することができた。
- ・ 今回初めて指宿商業高等学校への避難を行ったが、子供たちが冷静に対応することができた。また、津波到着までの時間を考えながら避難することが大切であることを理解させることができた。

(2) 課題

- ・ 津波は、子供たちが学校にいる時間に来るとは限らない。自宅に一人にいるときでも子供たち自身で安全な場所に避難できるような判断力を身に付けさせる必要がある。
- ・ たとえ、高い津波がすぐに到着しても安全に避難できる場所を確保しなければならない。今後関係機関とも連携し検討していく必要がある。

